

地道な活動でもちゃんとやっていると きっと誰かが認めてくれる時代

2012年は山あり谷ありの年でした。

北区から補助金を受けて続けてきたミニ保育事業は本年3月限りで補助金支給期間が終了します。区は、補助金終了後の善後策を示してくれませんでした。利用者の他に年間300万円の補助があれば1日10人のお子さんを年間180日預かることができるという行政の支出削減にもつながって、地域からは歓迎されている事業なのに、それを取り入れようとしない、行政の融通のなさに直面してきました。

しかし、「捨てる神あれば拾う神あり」。これまでと違った動きが出てきました。

立正佼成会北支部の「一食（いちじき）を捧げる運動」が昨年から取り組んだ地域活動団体への助成事業の第1回の対象に取り上げてくれて26万円の助成金をいただきました。経済産業省のコミュニティ事業担当者が「何かお役に立つことがあれば」と、助成事業の紹介にわざわざやってきました。今年に入ってからは、住友生命の「未来を強くする子育てプロジェクト・未来賞」（賞金50万円）をいただくことができました。全国から100以上の応募があった中で受賞対象は10団体ということですからありがたいことです。いずれのケースも審査の担当者がわたしたちの現場まで足を運んでくれて、わたしたちの話を聞いて判断してくれたのです。地元の北区では、施策を決定する立場にある人や選定委員さんが現場を見に来たりご用聞きに来るなんて、一度もなかったのに・・・。

これらの出来事で、いますぐ何かが変わるということではないけれど、意味のある活動をキチンとした運営で行っていると、そのうちに誰かが認めてくれるものだということが分かってきました。

2013年、でんでん子ども応援隊は、これまでの上下・縦横の地域関係が変わりつつあることを実感しながら、着実に事業を進めていきます。

北区補助金ゼロでも自主運営で頑張ります！
地域のみなさまの応援をお願いします！



特定非営利活動法人

でんでん子ども応援隊

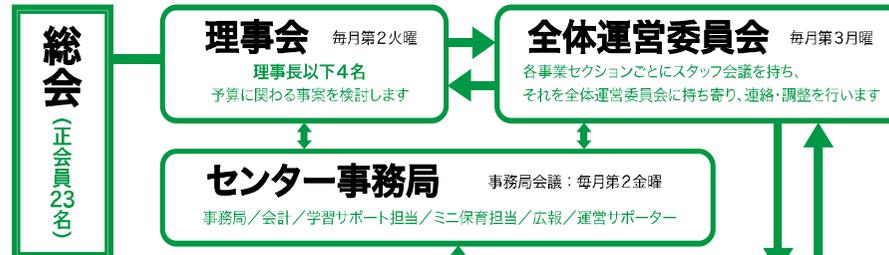
所在地：〒114-0031 北区十条仲原 1-27-3

TEL&FAX：03(3905)2355

mail：kids@dendenroom.or.jp

Homepage：http://dendenroom.or.jp

NPO法人でんでん子ども応援隊 会議と運営体制



1 子ども支援

学習サポート教室事業 スタッフ会議：毎月第3水曜

学習日：火～金曜日 16:30～20:00 土曜日 13:00～15:00
年間225日稼働

クラブ：書道 月曜日 17:00～ パソコン 土曜日 13:30～

2 子育て支援

①でんでん保育室事業 スタッフ会議：毎月第4土曜

火～金曜日 9:30～15:30

②子連れOK講座

TENコスベル講座 月2回開催

③広場・一時預かり事業

各事業セクション

3 子ども子育てネットワーク事業

- ①イベントの開催
- ②北区子育てネットワーク構築

4 子ども子育てに関する普及啓発事業

- ①子ども・子育てに関する講座の開催
- ②機関紙、研究報告、啓発書の発行
- ③ホームページの開設・運営

5 その他目的を達成するのに必要な事業

子ども・子育て応援隊の活動にご協力ください！

● 正会員として…

でんでんの事業の担い手として、運営にも
関心を持って活動していただける方
年会費(個人)…5,000円

● 賛助会員として…

でんでんの活動を支援していただける方
年会費(個人)…1,000円以上
年会費(団体)…5,000円以上

● 利用会員として…

でんでんの通年事業を利用される方
年会費…4,500円
半 期…2,500円

当法人へのご寄付を募っています！

● ご寄付などのご送金には郵便振替口座をご利用ください

口座番号：00140-0-708003

口座名：特定非営利活動法人 でんでん子ども応援隊

2013年 でんでん子ども応援隊が考えていること

でんでん子ども応援隊が特定非営利活動法人（NPO 法人）になってから、2013年1月で5年になります。現在の十条銀座キンコー堂さんの2階に拠点を移してから4年になります。

あのころは、この広い拠点をどうやって維持していくのかと不安に駆られる毎日でした。必死に、さまざまな助成金を求めて活動資金をつなぐ一方で、地域の子もたちが置かれている生きにくい状況を見つめ、その解決の手立てを探ることこそわたしたちの役割なのだ自分たちを奮い立たせて学習サポート教室の充実に力を入れてきました。

生まれたばかりの赤ちゃんとその母親の問題も見えてきました。親から子へ、子から孫へと子育ての伝承が引き継がれなくなったいまの地域社会の中で、孤立して子育てをするママたちが増えていきます。子育てのストレスなどの深刻な状況を解決するためには保育事業も必要であることが分かり、北区から“政策提案協働事業”の補助金を受けて「働いていなくても預けられる」ミニ保育施設を開設してきました。

◆求められていることのために自己研鑽◆

わたしたちの活動を担っているのは地域に暮らしている主婦が多いのですが、自分たちの余暇活動や趣味活動としてこの事業に係わっているのではありません。この間、学習サポート事業では発達障害またはそのボーダー域にある子どもたちが増えるのに対応して特別支援教育士の資格をとったり、安全・安心の保育をするために保育士資格の取得にチャレンジしたり、みんな必要な地域ニーズに応えるために自己研鑽に励んできました。

そうして、今では、でんでん子ども応援隊は年間267日開業、学習サポート教室の生徒さん60名、ミニ保育の契約者数30近く、年間延べ1600人の乳幼児を預かるまでに大きな事業となり、その担い手であるスタッフも学習サポート教室20名、ミニ保育12名、事務局5名の体制を整備するまでにいたりしました。

さて、「これから」が問題です。わたしたちは自分がやりたいことをやってきた団体ではありません。地域の子もたちや赤ちゃんを抱える若いママたちが抱えている問題を解決することによって、子育てが楽しく、子どもを育てることが喜びとなる暮らしやすいまちづくりのために活動してきました。その社会的な目的を実現するためには、たとえば子育て支援の保育の分野でも、子ども支援の発達障害児自立支援の分野でも、既存の行政制度を活用していく道を模索し続けていますが、実に狭き門なのです。

◆地域の中で循環していく支援システムをつくりたい◆

わたしたちは考えるのです。たしかに役所の施策は充実させなければならないけれど、それに頼ってばかりでは身近な子どもたちの問題をすぐに解決できないのではないかと。

もともと、地域福祉というものは、地域の住民自身が自分たちの抱える問題を自分たちの手で解決してきたもの。今、その原点に立ち返って、地域づくりをやり直すべき時代に差し掛かっているのではないかと思うのです。子ども支援にしても子育て支援にしても、およそ福祉の事業はお金がかかる割には利益を生まない事業。だから、行政施策に頼ってしまいがちなのですが、地域の大人たちが知恵と力を集めて、お金や物を生み出していくシステムづくりを本格的に考えて、実行していかなければ、子どもたちの未来は暗くなるばかりです。

たとえば、子どもたちのために使われた品々をリサイクルして販売し、お金に変えて、地域の子も・子育て事業に資金提供していく、そのことが地域の子もたちを健やかに育て、それが活力のある地域社会をつくりだしていくという「循環型」の子も・子育て支援システムを作っていきたいと思うのです。

でんでん子ども応援隊は、2013年、みなさんと一緒にそうしたシステム作りにも本格的に取り組んでいきたいと思っております。

学習サポート教室



個別対応のサポートで勉強が楽しくなる

2012年末の生徒さんは小・中学生あわせて60名に達しました。土曜日の教室では1:1の授業もっていますが、普通は、学習につまずき感を持った子ども、そうでない子ども一緒に教室で勉強しています。

そうすることによって「みんなちがって、みんなよい」というお互いを尊重する気持ちが生まれます。いじめの問題を解決するいとぐちにもなっています。



子どもクラブ

子どもたちの個性を伸ばす書道教室

「筆をにぎり文字を書くことを楽しむ」をモットーにしているので、個性豊かな作品ができていきます。



でんでん保育室

働いていなくても預けられる

週1日～4日
1日6時間の
新しいタイプの
ミニ保育



「でんでん保育室のおかげで育児不安がなくなった」「子供を預けている時間に自宅で起業の準備に打ち込めた」「スタッフのみなさんから聞く育児体験が参考になって、励まされた」という声が上がっています。

子連れOK講座

楽しむことから社会貢献へ!

子連れでゴスペルを楽しむだけでなく、参加者が運営委員になり、プログラムや活動計画を立案、実践しています。

自立した活動体になって、地域のために社会貢献をしていこうとする活動に育ってきました。



各事業の詳しいこと、ご利用の相談は当法人までお問い合わせください。それぞれの利用案内も用意しています